



乳がん検査は不安!!でも

気になる。

お医者さんや病院側は
どう考えてるの?
教えて宮良先生!



これまで検診でいろんな患者と接した経験から来院する患者が抱える不安とは?

宮良先生：当院は乳房に何らかの訴えを持った患者さんが受診する二次精査施設ですので、来院前から「もしくだったら」という大きな不安を持って来院する患者さんがほとんどです。平静を装っても、院内で測定した自分の血圧が異常に高い事にびっくりに、「やっぱり心配しているんだなあ」と再認識するのです。不安の程度も様々で、自分でしこりを触れた時から、あるいは「異常がありますので専門施設で精密検査を受けて下さい」という通知を受け取った時点から、突然不安が増大し、心ここにあらずという感覚に陥り、検査の前日はほとんど眠れず、食事も喉を通らず来院される方も稀ではありません。時には通知を受け取った日から精神的に不安定になってしまう患者さんもいます。極端な例ですが、「乳がん＝死」と考え、部屋を整理し、夫宛てに今後の生活の仕方をしたためた手紙を書いてから受診した患者さんもいました。

不安を感じる患者に医者として心掛けている事はなんですか?

「Woman」読者がお医者さまとコミュニケーションがうまく取れるようになるためのコツを教えてください。

宮良先生：緊張や不安にかられている患者さんに対して、気軽にコミュニケーションをうまく取ろうとすることはあまりしません。患者さんは、とにかく医者は今の自分の状態を正しく診断し、今後の方針を明確に示してほしいと願っているからです。コミュニケーションがうまくとれること、いい医者であることはまた違う話です。ただ患者さんが質問しやすい環境づくりには工夫が必要です。気難しい顔で威圧をかけないよう。難しい局面でも決して苦虫をつぶした顔をしないようにとか。診



宮良クリニック院長 宮良球一郎先生

琉球大学第一外科で一般外科・内分泌外科を修得後、最先端の「乳がん治療」を癌研附属病院乳癌外科及び癌研究所乳癌病理で学び、沖縄から新しい乳癌治療を発信するため帰郷。那覇西クリニックで乳癌専門医師として数多くの患者さんと接しながら、県内各地で正しい乳がん検診の重要性を講演。平成17年、浦添市に女性のための乳癌・甲状腺専門クリニック「宮良クリニック」を開院。スタッフと共に「和」をメインテーマに日本各地の乳癌専門医と連携をとりながら乳がんの早期発見、正しい診断・治療を実践している。医療の傍ら「全ては乳がん患者さんのために」を主旨とした「琉球乳癌倶楽部」を設立。医療機関の壁を取り払った患者さんのための【患者会】活動のサポートを続けている。

一女性外来一 乳癌・甲状腺専門
宮良クリニック

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 8:30~12:30	○	○	○	手術日	○	○	休
午後 13:30~17:00	○	○	○	○	○	○	休



ご予約はこちらから
TEL: 098-878-3311

宮良先生：まずは不安の程度をいち早く感じとってあげることが重要です。それには「チームワーク」がポイントになります。スタッフそれぞれが患者さんと同じ目線で接する努力をすることです。ナースとの問診でも、患者さんの不安を敏感に感じとり、ありのままを聞いてあげるのです。患者さんの話す言葉を方言なら方言で、患者さんの言いたいことも医療用語に直して言葉を変えたりせずに、カルテに記載します。マンモグラフィやエコーの検査中にも、不安の表情を見せている患者さんに対して声をかけ、話を聞きながら、安心を与えながら、そしてゆっくりに時間をかけて、検査を進めていきます。そうしますと最後に私の診察室に入ってくる時には、多くの患者さんから少しですが安堵の顔が見られます。そして私が心がけている事は、先に検査結果から話すようにしています。大丈夫なら大丈夫。何か問題があるなら、どこに問題があるのかを最初に伝えるのです。そうじゃないと、不安な状態で座っている患者さんに、結論に至るまでの過程をながながと説明しても頭に入らないですから。クリニック全体で患者さんの不安を解消してあげること。それが私が提唱している「チームワーク医療」です。

「チームワーク医療」です。乳がん検診の大切さについてお願いします!

宮良先生：まずはたった一回でいいので、ちゃんとした検診が出来る施設でマンモグラフィ検査とエコー検査を受けてみることで、痛いんじゃないかとか、発見されるのが怖いからなど受診を拒んできた理由がさまざまあると思いますが、実際自分で体験してみても、画像で自分の乳房を眺める事。そうすれば安心感が全く違います。また早期発見されれば驚くほどの少額な治療費で乳がんが治せるのです。ですから、まずはたった一回乳がん検診を受ける勇氣を持って下さい。

とても安心するね~!



理想とする医者との関係とは? まずは、患者さん及び家族から信頼という絆を得ること。そして数年前から私が提唱している「地域完結型チームワーク医療」の実践です。患者さんも含め医療チームが丸となって共に乳がんを戦うことです。「手抜きをすれば手がかる」と言われています。真摯な態度で手を抜かず、患者さん一人一人丁寧に同じ対応すること。それが大事です。医者の態度で患者さんの気持ちを後ろ向きにしてはいけません。患者さんも我々も意思を持った人間です。人は尊敬しないとダメです。互いが気持ちを一つにして乳がんと闘っていく関係でありたいですね。

編集からのコメント

今回先生のお話を伺って、まずは一度乳がん検診を受けてみよう!と思いました。私も検診に対するさまざまな不安があり、今まで一度も受診していません。まずは一度受けてみることに、乳がんに対する真の意味での安心感を得られないですもんね。今回、いい医者に出会えることが「正しい診療」を受ける上で、とても重要なことだと一番感じさせられました。宮良先生、勇氣をもって近いうち受診しにいきいきたいと思います。

まずは1回行ってみよう!!

